

# つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

## 江戸時代の生活を体験しよう

「出土遺物からみた江戸時代の暮らし」展終了しました



### 展示解説の様子

考古学講座の受講生に、展示の解説を行いました。

今回で3回目を迎えた、雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム「出土遺物からみた江戸時代の暮らし」が終了しました。今回は、6月23日から8月28日に開催し、夏休みの期間にも重なり、大変多くの方々が来場されました。

今回の展示では、江戸時代の雑司が谷に住んでいた庶民の暮らしの一端を、出土した遺物を通して、紹介しました。

第一展示台では、「江戸時代の飲食器」と題し、江戸時代に生きる庶民の、日常の食卓を再現してみました。食膳しょくぜんに見立てた台の上に、雑司が谷遺跡から出土した食器類を配置しました。江戸時代の食事の風景は、当時の風俗を描いた絵画資料な

どに描かれています。そうした絵には、出土した碗や、皿、鉢などと似たものが描かれています。

第二展示台では、「江戸時代の生活用具」を展示しました。特に、現代も使われている道具との、比較ができる遺物を展示しました。

例えば播鉢すりぼちは、江戸時代と現代とを比較すると、材質や大きさなどの違いがあるものの、基本的に同じ形です。また、火入れ・煙管きせる・灰落しの三点は、江戸時代の喫煙道具として使われたものです。火入れは現在のライターに、灰落しは、灰皿に当たります。

第三展示台は、「江戸時代の遊び道具」を展示しました。雑司が谷遺跡では、日用品と共に、飯事道具ままごとどうぐや人形などの、玩具類が数多く出土して

います。江戸時代の子ども達は、これらの玩具を使って、大人を真似る遊び「ごっこ遊び」を行っていました。また泥面子遊びも、江戸時代の子ども達には、人気のある遊びであったようです。泥面子は、直径2～3cm程の円盤状に作られた土製品です。この泥面子を使った遊びは、大人が銭を使って賭け事をしていたことが始まりで、これを木の実や貝殻などで子どもが真似、より銭の形に近い泥面子になったと言われています。

今回の展示では、夏休み期間の開催ということもあり、地元の方以外に遠方遠方からも、多くの

方々が来場されました。アンケートでは、「泥面子を作ってみよう」など、江戸の玩具に興味を持たれた方や、「雑司が谷の歴史を知ることができた」などの感想を頂き、多くの方々に楽しんで頂きました。

(榎本邦人)



江戸時代の玩具

人形や飯事道具、泥面子など色々な種類の玩具が出土しています。

まちかど遺跡ミュージアム関連企画  
夏休み体験イベント

## 親子で泥面子を作って遊ぼう

今回開催された「出土遺物からみた江戸時代暮らし」展では、当会の新しい試みとして、展示に関連した「親子で泥面子を作って遊ぼう」を、開催しました。イベント当日は、雑司が谷地域文化創造



泥面子作りの様子  
上手にできたかな？

館で泥面子の制作を、鬼子母神堂境内で泥面子遊びを行い、幼稚園児から中学生までの子ども達と、その保護者の方々が参加されました。

まず創造館の美術室で、泥面子の説明を行い、その後泥面子を参加者全員に作ってもらいました。イベントで作った泥面子は、樹脂製の型に粘土を押し込んで、これを型から外し乾燥させて作る、とても簡単なものです。ちなみに型は、遺跡から出土した泥面子から起こしたもので、当時の大きさや文様そのままを復元しました。用意した全ての文様の作製を目指す子もいれば、オリジナルの泥面子を作る子もいました。また子ども達以上に、保護者の方々が、夢中になって作っている姿が、とても印象的でした。

その後、スタッフによる乾燥作業を行う間、雑司が谷案内処での展示解説と、泥面子を使ったゲーム大会を行いました。展示の解説では、実際に作った泥面子と同じものが展示されていることに、参加者は大興奮でした。

場所を鬼子母神境内に移し、泥面子遊びを行いました。江戸時代の文献などから復元した「ま」という遊びを基に、当会独自のルールを定め

ました。親子でチームを組んでもらい、離れた位置からの泥面子を投げ入れ、落ちた場所の点数の合計を競う遊びです。簡単な遊びですが、子どもも大人も無我夢中に泥面子を的に投げ、泥面子遊びを楽しんでいました。また、江戸時代の情緒を残している鬼子母神境内での泥面子遊びは、当時の雑司が谷の風景を、呼び起こしたかのような感覚でした。

最後に創造館にて、参加者が作った泥面子と、子ども達には「泥面子博士」の認定証を授与しました。またゲームの上位入賞者には、江戸時代の雑司が谷遺跡から出土したものから型を起こした、天神様のレプリカ人形をプレゼントしました。自分たちで作った泥面子や認定証を渡すと、とても嬉しそうに、「また作りたい」、「友達にみせたい」などの感想が聞けました。イベント担当者としては、とても嬉しい評価です。（榎本邦人）



泥面子を使った遊び「ま」と 狙いを定めて、入れ～！

(公財) としま未来文化財団勤労福祉会館の委託で開催した講座「発掘調査報告からみえた豊島区の遺跡」が終わりました。今年度前期は、5月から9月の第2土曜日に計4回開催し(8月はお盆と重なるため、お休み)、区内で刊行された最近の発掘調査報告書をベースに、これまでに判明してきた遺跡についてお話ししました。また、この講座では恒例の、出土した遺物を実際に見て触れていただく時間も設けました。

第1回は考古学の基本的な考え方と、豊島区の遺跡についての概要についてお話しし、第2回以降は、区内の主な遺跡(巣鴨・雑司が谷・染井)についてお話ししました。

第3回には、雑司が谷遺跡へ実際に赴き、遺跡が位置する場所を体感していただきました。詳しくは、後の記事「雑司が谷遺跡を歩く」で報告します。

受講生は、過去に本講座を受けていた方々が大半でした。そのこともあってか、最終回でとったアンケートでは、豊島区内の遺跡を勉強すると他の地域の遺跡も知りたくなったとの意見もあり、遺跡の普及・啓発活動として講座の成果が実ってきたことが窺えるようになってきました。次回もまた受講したいという方も多くいらっしゃるの、より遺跡についての理解を深めていただけるような講座を、来年度も企画したいと考えております。

(山崎吉弘)



第2回講座の様子

### 考古学講座第3回報告

## ～雑司が谷遺跡を歩く～



講座の風景(千登世橋)

古い地形がよくわかります。

7月13日(土)に、「発掘調査報告からみえた豊島区の遺跡」の第3回目が行われました。今回は雑司が谷遺跡をテーマとして、受講生と一緒に雑司が谷地域を歩きました。街歩きの回は、講座の中でも大変人気が高く、この回を目当てに講座を受講する方もいらっしゃる程です。

今回は、都電荒川線鬼子母神前駅からスタートし、鬼子母神堂をゴールとして講座を行いました。普段何気なく通っている場所が遺跡であったり、古い地形は現在とは違っていたりなど、実際にその場所で説明することで、受講生には驚きの連続であったように感じられます。特に、最新の発掘調査の成果で分かってきた鎌倉街道の位置は、

多くの受講生が関心を示していました。

初めて街歩きの回を担当しましたが、解りやすく面白い説明を心がけることも大事ですが、街を歩くため、受講生の安全面や健康面にも注意を払わなければいけません。辛いこと(?)に、昼間は発掘調査の担当であったため、夜間に下見を行いました。しかしこの苦労も、受講生の満足げな顔を拝見すると、報われました。真夏の暑さにも負けず、受講生の方々は、街歩きを楽しんでいました。

(榎本邦人)



記念撮影(鬼子母神境内)

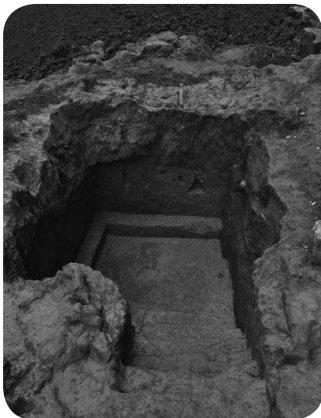
## 猛暑に負けずに発掘調査

今年の夏は、例年にないほどの猛暑日が続きました。少し歩くだけで汗が止まらず、息切れをする、まさに亜熱帯のような気候でも、発掘調査は行われています。今夏、駒込一丁目遺跡と染井遺跡で行われた発掘調査を皆さんにご紹介します。

### 駒込一丁目遺跡東急不動産集合住宅地区

2013年5月15日から7月19日にかけて、駒込一丁目遺跡で発掘調査が行われました。今回調査が行われた「東急不動産集合住宅地区」は、豊島区と文京区との区界に跨っています。周辺の調査においては、日光御成道（現本郷通り）沿いに展開する江戸時代の町家の痕跡や、弥生時代の住居跡、方形周溝墓などが発見されており、同様の成果が期待されていました。

調査の結果、弥生時代の遺構は、残念ながら見つかりませんでした。しかし、江戸時代から近代にかけての遺構や遺物が、多数発見されました。当地区は、江戸時代の絵図資料によると、植木屋の高木庄八の敷地と推測されています。このことを裏付けるように、植



**発見された地下室** 階段の先には、三角形の灯り置きと柵状の施設があります。



**植栽痕から出土した弾丸**

幕末に日本に輸入されたと考えられる、フランス製の拳銃の弾丸が出土しました。



**布堀り基礎跡** 突き固められたローム土を取ると、瓦や陶磁器が、びっしり敷き詰められていました。

栽痕や植木鉢が多く確認されました。また植木室の可能性が考えられる、室部に柵状の施設を設けた地下室も見つかりました。近代の遺構では、布堀り基礎の跡が発見されました。この基礎は、ローム土や瓦、陶磁器などを交互に突き固めた、いわゆる版築構造の基礎でした。また基礎の覆土中から、アワビが出土しています。このアワビは、樹皮のような物の上に包まれるように置かれていました。出土状況から地鎮の可能性も考えられますが、現在調査中です。

### 染井遺跡駒込三丁目 359-2 地区

染井遺跡は、豊島区 No. 5 遺跡に指定されています。この遺跡の江戸時代は、東西に延びる染井通りを境とし、北側が植木屋、南側が津藩藤堂家などの大名屋敷となっていました。

今回の調査は、2013年8月19日から9月5日にかけて、染井通りの北側、植木屋が集中する地域で行われました。

発掘調査の結果、近世から近代の遺構・遺物が見つかりました。現段階では、江戸時代かと推測される植栽痕や、地下室を転用したごみ穴などが発見されています。また、敷地南側から北側に傾斜する旧地形が確認できたことも大きな成果と言えます。

（榎本邦人）



**発掘調査の風景** 元々の地形は、斜面であったため、高低差がある調査区でした。

## イベント報告 駒込一丁目遺跡 東急不動産集合住宅地区 遺跡見学会を開催しました

去る7月6日、駒込一丁目遺跡にて当会会員向けの発掘調査見学会を開催しました。今回は、11名の方にご参加頂きました。

発掘調査の見学の前に、駒込一丁目遺跡の位置と、これまでの調査成果について説明しつつ、1時間ほど周辺を散策しました。駒込駅すぐ近くの谷田川谷を見て、台地上に、弥生時代では墓や住居がつくられ、江戸時代では日光御成道（現本郷通り）近くに植木屋が建ち並び、その奥には武家地が広がっていた様子を説明しました。ここでみなさんが特に目を見張ったのは、武家地の頃の池の痕跡が、当地に残されていることでした（現在マンション敷地内のため自由見学不可）。

発掘調査では、江戸時代の植栽痕や近代の建物跡などがみつかり、皆さんには、調査を間近で見学し、出土した遺物を手にとって頂きました。大通りのすぐそばで遺跡が残されていることに、皆さん驚かれています。また機会がありましたら、ご案内いたしますので、その際

には奮ってのご参加お待ちしております。

なお、今回の遺跡見学会は、豊島区教育委員会、東急不動産（株）、（株）シン技術コンサル、豊島区勤労福祉会館の各関係者の方々にご協力頂きました。ここに感謝し申し上げたいと思います。

（山崎吉弘）



見学会の様子 遺構の間近で見学しました

## ～「豊島区の文化財展 2013」開催～

今秋も、東京文化財ウィーク期間中に、豊島区役所1階ロビーにて文化財の展示を行います。

今年は、豊島区で本格的な発掘調査が行われるようになって25年の節目の年です。豊島区初の本調査であった日本郵船地区の調査から最近の調査成果までを踏まえて、明らかになった植木屋の様子を伝えるコーナーや、今注目のトピックを紹介するコーナーなど、盛りだくさんの内容を予定しています。

日時：2013年11月11日（月）～19日（火）

（ただし土・日・祝日を除く）

9時～17時（開庁時間内）

会場：豊島区役所本庁舎1階ロビー

豊島区東池袋1-18-1

**入場無料！**

現地では無料でパンフレットを配布しています。

問い合わせ：豊島区教育委員会教育総務部  
教育総務課文化財係



写真：染井遺跡興銀ひろば地区出土 古九谷皿

※11月22日（金）より12月23日（祝）まで、雑司が谷案内処で、一部内容を変えて引き続き展示する予定です。

## 土層剥ぎ取り標本作製の裏側

貝塚等の土層断面展示を博物館でしばしば見ることがある。これらの多くは、発掘調査で検出された遺構や基本層序の土層を薄く剥ぎ取った実物標本（土層モノリスとも言う）である。

実際の土であるため、風合いや質感、そして堆積状況を視覚的に伝えるには都合の良い資料と言える。写真や絵による土層断面の観察もできるが、実物標本の臨場感には及ばない。では、いかにして標本が作製されるのか、ここでは剥ぎ取り方法の1つを紹介する。

標本採取用の試掘坑を設け、土層表面を精査する。これが重要である。表面に凹凸が残ると、後に行く裏打ち布の密着が難しくなる。発掘調査では土層断面を調整するためにカマを用いるが、日頃のカマ使いがここで役に立つ。

次に樹脂の塗布。使用する樹脂は、変性ウレタン樹脂のトマック NS-10 である。水と反応して固化するため、湿った土層の剥ぎ取りに適している。粘土は含水率が高いが、樹脂とすぐ反応してしまうためスピードが求められる。余談だが、当然汗にも反応する。作業を終える頃には手が真っ白になっている。しかもこれがまた落ちにくい。手袋の隙間から浸入するので万全な状態で臨みたい。

さて、一通り十分な樹脂を塗布した後、すかさず裏打ち布で覆い、その上から樹脂を塗布する。密着させるためには刷毛を用い、さらには土層と裏打ち布の隙間に残る空気を抜くためにはタワシが有効である。板碑を拓本した経験がある者ならば要領よく行えるのではないか。そして、3～4時間放置・乾燥させる。

乾燥が進み、剥ぎ取り作業に入る。土層によって剥がれていく感覚が異なる。粘土層はスーッと剥がれるが、拳大の石や瓦を含む土はかなりの力がいる。苦勞して引っ張りだし、板の上に仮置きするが思いのほか軽いことに驚く。つい先程まで土層断面にあったものが、一枚の標本として姿を変えた状態は不思議でならない。

出来栄えに満足しながら、ふと見ると意図しないものまで付いている。例えば、根っこや近現代土坑内のビニールである。ただし、堆積状況や環境を考える上では、これはこれでリアルであり乙なものでもある。

剥ぎ取り標本を見る機会があれば、それは大地の断片を切り取った大事な資料であり、さらにはこうした苦勞の賜物であると思っ頂ければ幸いである。（高木翼郎）



1. 試掘坑の設定。  
掘削は重機を使用。



2. 剥ぎ取る範囲を決める。



3. 樹脂と裏打ち布を土層に密着させる。



4. 乾燥後に剥ぎ取る。

### 【編集後記】

今号から、編集担当が代わりました。新企画も計画中です。今まで以上に、紙上を盛り上げていきたいと思っておりますので、今後も、「つたのは通信」をよろしくお願いたします。㊦

賛助会員の更新時期になります。更新よろしくお願いたします。

編集・発行

特定非営利活動法人  
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

「つたのは通信」の由来： 蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井躰を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。